

社会心理学演習 I



2008.04.22

火曜 7・8 高木英至

1

高木の今年の授業

■ 要因

- 学部長(2年間)
 - いくつかを非常勤講師に回す
- 「社会調査士」資格対応
 - 社会調査法Ⅱ、データ解析実習、社会調査実習
- → 受け持ち授業変化・現



■ 受け持ち授業

- 前期: 演習、大学院、卒論
- 後期: 演習、大学院(現代社会特別専門授業Ⅲ)、卒論、データ解析実習
- 問題点: 社会心理学実習をどうする?
 - 研究法、実習
 - 参考書: 南風原・市川・下山(編)(2001)『心理学研究法入門』、東京大学出版会。(¥2800+税)

2

授業テキストについて

■ Baron らの Social Psychology (11th ed.)

- 注文可能、在庫はある(本屋の回答)

- 価格は 6,700円+α

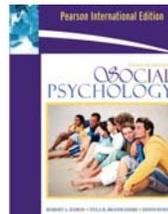
- ただし 12th ed. が出ている

■ 判断

- 今年の授業は 11th ed

- コピーで対応

- 次年度から 2年間 12th ed



3

今日のお話

■ 次回(5/13)から授業

■ 今日 → 「論文」について

- 原則は「レポート」も同じ

■ 教養学部では、「卒業論文」を必修にしている

- その賛否

■ 「論文」に関する考え方の問題



4

卒論・レポート



- 困難な面
 - 「研究」と、学生レベルとの乖離
 - 専門教育の問題
 - 現状で、「レポート」はあまり良くない
 - 仕方がない面
 - 教員による判断の相違
- 論文を書くには「良い論文」の例に数多く触れる必要がある
 - 本来の演習
 - 必ずしもできていない

5

記述 vs 説明

- 記述的研究／説明を志向する研究
 - 記述的研究：対象を記述
 - 現代の若者は……だ
 - Q:どのような場合に意味があるか？
 - 社会学／社会心理学ではどうか？
 - 事例研究はなぜするのか？
- 説明を志向する研究
 - 一般性を求める、「法則定立的」
 - 一般性を求めることに価値があるか？
 - 事例研究は位置づくか？

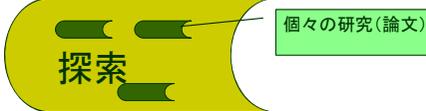
6

探索型研究 vs 検証型研究

- | | |
|---|-------------|
| ■ 探索型 | ■ 検証型 |
| □ 特徴 <ul style="list-style-type: none">■ 興味ある対象を調べる■ 情報を収集する■ 結論を得る | □ 予め仮説を立てる |
| □ イメージしやすい | □ 仮説から予測を導く |
| | □ 予測を検証 |
- どちらをイメージしやすいか？
 - 自分ならどちらを選ぶか？ それはなぜか？

7

実際の研究

- ある人の研究全体は探索型かもしれない
 - しかし個別の研究(論文)は検証型で成り立つ
- 
- 問題
 - 卒論はせいぜい「個々の研究論文」
 - しかし検証型の研究が特定できる人は少ない

8

ソレ、研究テーマになる？

- 何かなるかならないか？
 - 分野、人(先生)による考えの相違
- ある理系の先生の言葉
 - 「学生がストーリーを作れない」
 - 決められたサイズの研究のテーマを作る難関
- 次で考えてみよう

9

テーマとなるか？ 何が足りないか？ どうすべきか？

- 過去の実例
 - 映画の中に描かれる恋愛から、恋愛の形を調べる
 - 血液型によって人の性格は異なるか？
 - 「両性的な人」は社会的適応が高い、と言えるか？
 - サッカーでホームアドヴァンテージ効果はあるか？
 - コミュニケーションによって社会的ディレンマは解決に向かうか？

10

判断基準(と思えるもの)



- テーマとなり得るか？
 - Non-trivial といえるか？
- 独自性があるか？
 - あなたのオリジナリティは何？
- ある程度の一般性があるか？
 - 事例研究の位置づけ
- 実行可能か？
 - 測定できるか？ 測定法があるか？

11

相当によくできた研究例

- 概論で取り上げたMussweiler & Forster(2000)
 - 「セックス→攻撃」リンク
- 背景
 - 暴力と性とは結びつく、という観察
 - 暴力的ポルノの問題
- 基本的アイデア
 - 男性の場合、性の観念は攻撃性を引き起こす
 - どのようにして思いついたか？
- 調べ方
 - 直接は実施できない
 - 人の観念をどのように測定するか？という問題
- 採用した方法: サプリミナルなプライミングの効果を調べる
 - 攻撃と連合した単語: violence, hatred, brutal, murder, attack, malicious
 - 性と連合した単語: skin, wet, feel, sweat, bed, stiff

- 実験1:性の観念に触れると攻撃の観念が浮かぶ
 - 攻撃的な単語の認識に要する時間は(男女とも)
 - 性と連合した単語のプライミング < 中性的な単語のプライミング
 - 性の観念 → 攻撃の観念へのアクセシビリティ
- では実際に攻撃行動を誘発するか？
- 実験2
 - 攻撃性の指標:ダートで的にある人の顔を狙う
 - 性のプライミングを受けた被験者は、男性だけ、攻撃性が高まる

13

Mussweiler & Forster(2000)の実験(2)

- 男と女で違うのではないか？
- 実験3
 - 性のプライミングを受けた被験者は、男性だけ、女性に対して攻撃性を高める
 - 攻撃性の指標:他の人(男or女)に不快な写真を送ること
- 実験4
 - 性のプライミングを受けた被験者は、女性だけ、男性の曖昧な行動を攻撃的と認識しやすい
- 研究の構造
 - 個別の実験=(仮説)検証型
 - 一連の実験=探索型？

■ 今日はお
しまい



15